

来春 島田のお茶が皇室に献上されます

◎農政課 ☎36・7168

手揉み新茶を皇室などに献上する「謹製事業」の謹製地に、島田市が決まりました。

献上茶謹製事業は、昭和34年から53年間にわたり、静岡県茶手揉み技術保存協会の主要事業として、厳かに続けられてきた歴史ある事業。過去には、旧島田市・旧金谷町・旧川根町で実施していますが、1市2町合併後の新生島田市としては、初めてです。

謹製地の決定を受け、8月9日には、島田市献上茶謹製事業実行委員会が設立されました。市役所で開かれた総会には、県および市の手揉み保存会やJAおおいがわ、市茶業振興協会などから、20人が出席。市長を会長に選出し



島田市献上茶謹製事業実行委員会



指定農園での大塚さんと大石さん(右)

た後、献上用の茶葉を摘むための指定茶園に、初倉地区湯日の大石進氏の茶園と、阪本の大家聡氏の茶園が選ばれました。また、謹製記念式典や、記念リーフレットの作成などの事業計画が承認されました。

市では、天皇陛下が東日本大震災をお気遣い、心をお痛めになつておられることを鑑み、また、島田茶・金谷茶・川根茶の品質向上、消費拡大および茶産業の発展ならびに茶産地の名声を高めるために、献上茶謹製事業を行っていきます。

献上茶は、指定園で摘み用の自然仕立てで栽培し、来年中旬頃に手摘みした生葉を手揉みして仕上げ、5月下旬頃には皇室などに献上する予定です。

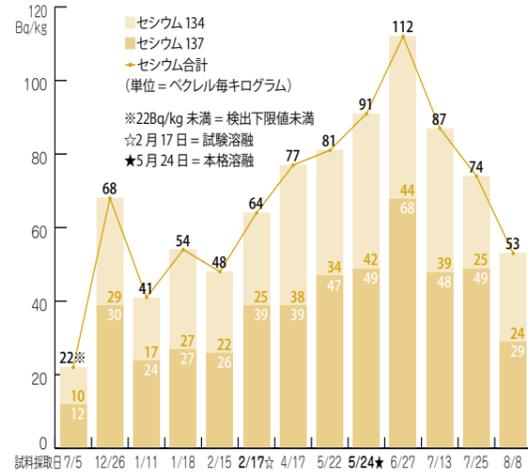
災害廃棄物の本格溶融に伴う測定結果を公表

◎環境課 ☎34・1122

市では、5月23日に岩手県山田町から搬入された災害廃棄物約6tを、市内からの通常搬入ごみとの混合率を約15%とした上で、本格溶融を行いました(広報しまだ6月号参照)。

田代環境プラザにおける処理灰の放射能濃度や、一般廃棄物最終処分場における水処理施設の放射能濃度などの測定結果を公表します。いずれの数値も、問題はありませんでした。

2. 田代環境プラザ処理灰の放射能濃度測定結果



1. 田代環境プラザ関係空間線量率測定結果 単位:マイクロシーベルト毎時

測定場所	地上高	5/21 (本格溶融前)	5/24~8/8 (本格溶融後)
伊太小学校正門	1m	0.06	0.07~0.08
大津小学校正門	1m	0.07	0.06~0.08
上伊太公会堂	1m	0.08	0.08~0.09
なごみの里南側	1m	0.08	0.07~0.09
田代環境プラザ敷地境界4カ所	1m	0.07~0.08	0.06~0.08

*測定は、毎週1回実施

3. 一般廃棄物最終処分場の空間線量率測定結果 単位:マイクロシーベルト毎時

測定場所	地上高	5/21	5/29~8/8
一般廃棄物最終処分場敷地境界4カ所	1m	0.07	0.06~0.08

*測定は、毎週1回実施

4. 一般廃棄物最終処分場水の放射能濃度測定結果 単位:ベクレル毎リットル

試料採取日	検出下限値	5/21	5/29~8/8
原水(水処理施設流入水)	9~13	不検出	不検出
放流水(水処理施設処理水)	8~12	不検出	不検出
観測井地下水	1	不検出	不検出
集水ピット地下水	1	不検出	不検出

*測定は、毎週1回実施

*分析結果が検出下限値未満であった場合は、「不検出」と表示

ジュニア世代のスポーツ人口の拡大を目指して

◎スポーツ課 ☎36・7219

市では、志太・榛原地域5市2町を拠点として将来のJリーグ参入を目指すJFL(日本フットボールリーグ)クラブチーム「藤枝MYFC」に、出資することを決めました。

清水エスパルス(J1)から、8月25日にエコパスタジアム(袋井市)で開催されたホームゲーム「浦和レッズ」戦の無料招待チケットが、市内の小中学校18校の児童全員5493人に贈られました。

8月7日に市役所で行われた出資式で、桜井市長は「一歩一歩階段を上がり、Jリーグを目指して欲しい」と激励し、小山淳代表は「スポーツのまちづくりの一助になるように頑張りたい」と答えました。

7月11日に市役所で行われた贈呈式では、同チームの竹内康人社長と岩下敬輔選手、そしてスポンサー企業である中部衛生検査センター(島)の小澤博美社長らが出席。島田第二小サッカースポーツ少年団員14人が、お礼の言葉を述べ「ぜひ見に行きます」と声を弾ませました。



資本参加申込書を受け取る小山代表(右)



スポーツ少年団員と岩下選手(最後列)

友好交流に向けてモンゴル・ハンオール区を訪問

◎秘書課 ☎36・7390

8月27日から30日まで、桜井市長や島田モンゴル交流協会の会員ら12人が、モンゴルのウランバートル特別市「ハンオール区」を訪問しました。

同区の面積は4万8466㎥、人口は約11万2000人。チンギスハーン国際空港をはじめ、工場や大型国有施設がある、モンゴル有数の工業地区であるとともに、観光分野でも栄える観光区でもあります。

昨年、市ではウランバートルから小中学生の親善使節を1カ月ほど受け入れ、地域の皆さんと交流を深めました。また、今年3月に来島したハンオール副区長からは、友好交流の増進を視野に入れた招聘依頼がありました。

訪問団は、市を訪れた親善使節が通

うナラン学校を訪問。子どもたちは「幸せなら手をたたこう」を日本語とモンゴル語で歌ってくれるなど、上手な日本語で歓迎してくれました。

また、表敬訪問では、ガンホヤグ区長が「両市の友好協定に向けて、今後さらに交流を進めていきたい」と呼びかけると、桜井市長は「学生親善使節の相互派遣などの教育交流を中心に、将来的には観光・文化・産業など市民レベルでの交流を深めていきたい」と応じました。その後、区関係者に入れたての島田のお茶を味わってもらったり、島田髷の浴衣を着て日本舞踊を披露したりしました。



歓迎をしてくれたナラン学校の子どもたち



大草原に立ち並ぶ伝統的住居「ゲル」

ガンホヤグ区長(右)